

失敗こそが唯一成功の母である

当初の予定ではこのメルマガで物語風に時間を追って、私が何故、失敗したのか、失敗がいかに悲惨なもので、そこから這い上がってくるのにどんなに苦労をしたかを叙述する過程で私が会得したと自負する「どんなにツキのない投資家でも失敗しない投資法」を皆様に公開する予定でした。

しかし、実際に己のことを赤裸々に語る段になるとなるとジャン・ジャック・ルソーが「懺悔録」の中でいっているように「素っ裸で街の中を歩く」ような勇気いることを思い知らされました。現在の私には残念ながらまだその勇気がありません。

そこで当初の方針を変換して私が借金地獄から這い上がる過程で傷だらけになりながら自分なりに会得した投資法と投資哲学について語ることにしたいと思います。

株式投資で成功するために知っておくべきこと

1) 成功は偶然の成果であり失敗は必然である

多くの投資家は成功者に学ぼうとします。意外に思われるかも知れませんが投資家の儲からない原因のかなりの部分はここにあります。

私が株式投資をはじめてから50年弱になりますが、成功者が成功者であり続けた例をほとんど知りません。

一定期間に限れば、ある人は株価に影響するような内部情報を密かに知ることのできる立場にいたため、また他の人はその時の相場が自分の体質に合ったために目覚ましい実績をあげることはままあります。

私自身、40年不況から立ち直りの過程で単なる無鉄砲さのゆえに前にも申し上げたように短期間ではありましたが驚異的な成果をあげることができました。

私の買う銘柄にはチョウチンがつき、いかに周囲の投資家に気づかれぬように買うかに苦慮した時期さえありました。

しかし、所詮は自分の向こう見ずな性格が時の相場にマッチしただけの話で、相場が穏健な動きになり保合期間が長くなると当然のことながら回転が利かなくなり引かれ玉が累積してきます。そんなところに相場全般が一発急落、あっけなく全財産を吹っ飛ばしてしまうという結果になってしまいました。

人間というものは誠に愚かな者で、一時的な成功であっても、それは己の才能によるものと錯覚するものです。(相場師の伝記などを読むとこれは私だけではないようです) その錯覚の分だけ立ち直りの時期が遅くなる結果を招くのは当然です。

初心者は特に注意されたい

今、書店には「私はこうやって成功した」式の株式ノウハウ本が山積みになっていますが、私がパラパラと読んだ(深く読む価値など全くない)ところでも単なる偶

然のお陰で著者が一時的に成功した手法を絶対の法則と錯覚し断定的に解説しているものが圧倒的に多いようです。大抵の人は額に汗せずネット証券を通してチョコチョコと売買するだけで給料の何倍も稼げるならサラリーマンなどやめて日計りディーラーになった方がよいにきまっています。

しかし、ここで良く考えて頂きたい。世の中には宝くじで何億円も当たる幸運な人もおります。そんな幸運な人がいるからといって会社をやめて宝くじ買いに専念する人がいるでしょうか。

良識のある人ならば世の中にそんな甘い話はありません。いかに高名とはいえ株式評論家がしんどい思いをして執筆活動をしているのは自分が実際に投資をするよりも事務所にこもってシコシコ原稿を書いている方が儲かることを知っているからに他なりません。

(一応株の入門書を読まれ基本的な知識をマスターされた方に私個人としては次の二著をお勧めします。「ウォール街のランダム・ウォーク」パートン・マルキール著・井手正介訳ー日本経済新聞社。「証券投資の思想革命」ピーター・L・バーンスタイン著・青山護・山口勝業訳ー東洋経済)

失敗を喜ぶべし

これまで述べたように成功には偶然の幸運という要素が入っているケースが圧倒的(特に短期では)ですが、失敗は必然です。

私は失敗に失敗を重ね、その原因を多面的に考えに考え抜いた結果、一つの投資法にたどり着きました。その投資法をジャンピング・ポイント(J・P)法と名付けました。

株式投資に限らず何か新しいことをマスターしようと考えた時、大概の人はその道の権威と言われる人に弟子入りしようと思しますが、私にいわせればこれが間違いの元です。

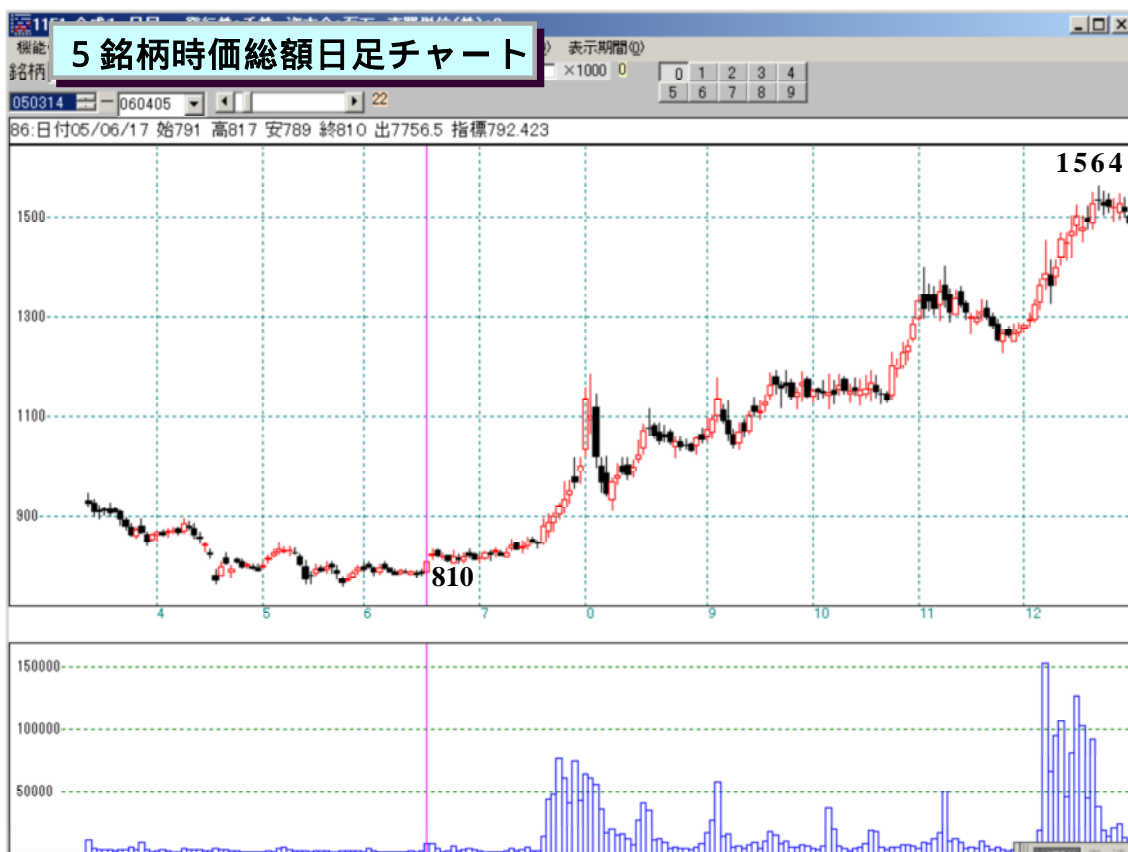
その道の権威と言われる人は例外なく天才です。天才は難しいことも簡単にクリアしてしまうため、凡人がどこでつまずき伸び悩むか理解できません。

これに反し、失敗に失敗を重ね血のにじむような努力をしてやっと人並み以上の水準に達した人は、そこに到達するまでにどこで苦しみ、どうやってそれを克服したかの経験を鮮明に記憶しており、その経験に基づき新人を指導します。

株式投資の世界もこの例外ではありません。数多くの失敗を経験し、どうしたらその失敗を回避できるかを考え抜いてきた人だけが、合理的に無駄なく初心者を指導することができます。

一般論や精神論ではピンとこないと思いますのでここからは具体的な例をあげながら合理的な株式必勝法について解説していきたいとおもいます。

J・P法では下記のような効率的な売買を誰がやっても同じようにできてしまいます。



上記のチャートはJ・P法により機械的に選択した5銘柄の時価総額チャートです。
(各銘柄を1000株宛買うとすると翌日寄付金¥823,000-で買うことができます)

特徴

- 誰がやっても同じタイミングで買い場が決定される
- 経験の多少に関わらず同じ銘柄を選ぶことができる
- 5銘柄を同時に買うことによりリスクが分散される
- 銘柄選択のプロセスが極めて簡単である

具体的なカイトタイミングの選び方、銘柄選択法は次の号で具体的に解説します。